

2019（令和元年）第9回奥出雲町教育委員会定例会会議録

日 時 令和元年9月18日（水）
 開 会 15時00分
 閉 会 16時20分
 場 所 横田庁舎 三階 第三委員会室
 出席委員 福田充雄教育長職務代理者 荒金勇吉教育委員
 谷尻圭子教育委員 高橋美奈教育委員 塔村俊介教育長
 委員会事務局 永瀬克己結婚・子育て応援課長
 長谷川史郎教育魅力課長補佐、糸原保弘指導主事

塔村教育長

（挨拶）

- ・三成小改築事業の凍結と再編協議一時中断について。
 ＊9月10日に議会へ説明し、併せて町内の小学校・幼稚園の保護者宛てに文書
 を発送し、校区别説明会に係わる自治会長・PTA会長・幼稚園の保護者会長
 へ電話等で連絡。町内へ回覧で周知を図ると同時に10月広報掲載予定。
- ＊苦渋の決断になったが、今後ともお力添えをお願いしたい。具体的なところは、
 来月以降の教育委員会等で協議いただきたい。
- ・高尾小落語 東京公演について
- ・学校エアコン整備事業について
 ＊三沢小学校、布勢小学校の工事が遅れている。原因については、電気工事とガ
 ス工事の違いで、三沢小学校と布勢小学校はガス式を選択した。ガス式の方が
 部品供給に時間がかかったことが大きな要因。

※開会宣言 教育委員の出席者数を確認し、会議の成立を宣言

※会議録署名委員 谷尻委員

《議事》

①令和元年度全国学力・学習状況調査の結果概要について（報告）
 資料により説明

糸原指導主事

谷尻委員

- ・家庭学習は、中学生で1日1時間か。

糸原指導主事	・町内学校は90分という数字を出しているが、このアンケートが1時間の次が2時間になっている。1時間はやっているという回答が多くあり、2時間やっているかという質問に対しては、1時間半と言われているから2時間という回答は少なくなる。
谷尻委員	・中学生が1時間でいいのか。
糸原指導主事	・少ないと思う。
福田委員	・以前から少ない。部活から帰ってなかなかできない。
糸原指導主事	・学校現場の経験から、ゲームやラインなどのやりたいことがあることと、それらをやってしまう背景には勉強をしなくても大丈夫ということがあると考え。高校入試は大丈夫という甘えがあると考え。
福田委員	・子供は大丈夫だと思っている。
糸原指導主事	・学校以外の塾などの時間も含むということになっている。
谷尻委員	・含むというのであれば、最低2時間は必要だと思う。
塔村教育長	<p>・一般論としては、中学生の塾の割合としては半数以上が全国的な傾向になるが、奥出雲町は2割～3割ぐらい。家で1時間勉強できると思うが、プラス1時間机に向かうとなると現状としては難しいと考える。あとは宿題の量の設定になる。2時間こなすためには、宿題プラスアルファを自分で自習をすることが必要となる。</p> <p>・高校になると極端に勉強時間が減る。</p>
糸原指導主事	・ほとんど勉強しない生徒が多くなる。
谷尻委員	・しなくても進級できるということか。
荒金委員	・二極化していく。する子はするし、しない子はしなくなる。
塔村教育長	・中学3年生の初期以降、勉強量が変わってくる。春の時点は、少ないけれど1時間勉強する子供がいるが、3分の1は1時間も勉強していないことになる。2学期、3学期になるにつれて、勉強してくるが、まだそこに至っても勉強しないというのが奥出雲町の弱いところだと思う。

糸原指導主事	・都市部の学校（生徒）は、どんなにさぼっていても最後は勉強をする。
塔村教育長	・そこでエンジンがかからないままいくと、その後もかからない。
谷尻委員	・エンジンがかからないまま行っても良しとされる環境だったか。
塔村教育長	・学校再編を進めている島根県の選んだ道だと思う。都市部だけの話になっている。その中でどのように勉強していくかというのは、奥出雲町では下からの習慣の積み重ねしかない。受験勉強のためにするのではなく、習慣としてやるというしかない。出雲、松江だったら10点違えば行く高校が違うことになる。
荒金委員	・奥出雲町ではそういった環境は、ない。
谷尻委員	・塾だけ増やしても行く子供がいなければ意味がない。やりたいと思わないといけ ない。
荒金委員	・10年前よりは家庭学習の時間がアンケート上だけど、するようになってきたと 思う。
糸原指導主事	・自学が当たり前になる前の10年～20年くらい前は、全くしなかった。
荒金委員	・「勉強はするものではない」という時代があった。それではいけない、ある程度学 習時間が延びてきていると思ってる。積み重ねていくことが重要である。
塔村教育長	・中学校3年生の県平均が国語で+6、数学で+9、英語で+2というのは、ここ 数年で飛び抜けている。奥出雲町だから教育できないという話ではない。ここま でいけば県内トップレベルになる。
谷尻委員	・この学年が特別に飛び抜けているということか。
糸原指導主事	・小学校6年生の時も高かった。家庭学習の面でいうと、頭打ちになっている。自 学が定着して1時間や1時間以上という数字は簡単に出るようになったが、そこ から伸びない。内容の深まりもない。このままではいけないということが続い ているように感じる。
福田委員	・時間はしているかもしれないが、中身を何をしているか。中身の充実度という形 で考えていけないといけな。そこがなかなか見えない部分がある。

糸原指導主事	・ 自学に頼らない、宿題をきちんと出すということを進めている学校、学年もある。
福田委員	・ それも子供の質によって違う。自分で授業中にしっかり学びながらという子供は、帰ってからも勉強をするが、授業中に聞いていなくて家に帰ってから勉強をしるというのは無理な話だ。基本的には授業をどのように作っていくのかということをやっていないといけないと思う。先生たちは一生懸命努力をしている姿を見せてもらえるが、学校の中での先生たちの話を聞いていると、もう少し子供の話があるといい職員室もあるし、子供の話がたくさん出ている職員室もある。自分の学級は自分の学級でという先生もいれば、自分の学級だけではなくて他の学級とも話をしながらという先生もいる。もっと複数の学級があれば空いた時間に話もできるが、それが無い。例えば中学年の3年生と4年生の担任が子供のことを話すということがあれば、子供の質が変わってくると思う。
谷尻委員	・ 先生たちの仲間意識や磨き合うという力だと思う。
福田委員	・ 学校をあげてそういった形になってくれると先生たちの力も違うと思う。
谷尻委員	・ 現状として、家庭で勉強をみてやるのは3年生くらいまでだと思う。
糸原指導主事	・ 勉強の中身をみてやるということに関して言うと、小学校3年生までみていただければ家庭の勉強としては十分だと考える。一番大事なのは小学校1年生だと思う。そこで勉強をするということを家でも当たり前に行えるかできないかということは大い。中学校に入ってもそう思う。難しくなってから見てやっても遅い。
塔村教育長	・ 最終的に小学校6年生、中学校3年生の段階では頑張っているけど、小学校3年生の時が低い。小学校3年生から5年生で取り返ししながらという傾向はある。共働きが多いなどあるかもしれないが、祖父母を含めて環境を作っていってあげないといけない。
福田委員	・ 小学校就学前に親が読み語りをしている。1年生、2年生はまだ親が見ているが、3年生になると目が離れる。中学年の一番大事な部分で親の目が離れるから、その部分が一番曲がり角だと思う。
塔村教育長	・ 学校ごとに人数が少ないからこそブレる可能性も大きくなるが、町平均と学校平均とはまた違う。勉強に向かえるようなクラス運営や学校の雰囲気前提にある。それが作られてきた学校がテストの点数や今回の学力調査の結果にも繋がっている。それを含めた先生たちの力というのは頼りになる。

高橋委員	・ 小学校（児童）で、宿題をしていかない子供はいるか。
糸原指導主事	・ 中学校入学前の生徒指導報告の連絡をしているなかでは、いる。
高橋委員	・ 中学校と比較しても同じくらいか。
糸原指導主事	・ 仁多地域、横田地域でいえば、4つの小学校から1つの中学校へ進学するが、各小学校で1人ずついれば、中学校で4人いるという感じ。
高橋委員	・ 中学校で増えるわけではないか。
糸原指導主事	・ 中学校にいったから宿題をしない子が増えるという印象はない。中学校で宿題が出せない子は、小学校の時からそういった傾向があった子になる。
高橋委員	・ 小学校は宿題が多かった。中学校は、自分で進めていかないといけないことが多くなるので、宿題だけしていったら1時間もかからない子供も多いのではないかなと思う。「副教材もあるので、授業の時に今日はここまでできるという声がけをしてもらえないか」と去年の教育を語る会で伝えたら、「子供によって進度も違うし、そこまで手が回らない子供もいるのでできない」と（教員に）言われた。課題があればやらない子が増えているのだったら、安住してしまう子供が多いのであったら課題を増やすという方法もあるのではないかなと思う。やるという習慣がある子供が多いのであれば、続けて課題を課し続ければ勉強をするのではないかな。
糸原指導主事	・ 学校、学年によっては、宿題を増やしているところもあると話したが、例えば横田中学校の3年生の学年は、先生が宿題が好きなので宿題を出す。なので、今の3年生は宿題をやっている。元々力のある子供が多い学年なので、与えれば与えるほどやってくるので学力は高いところでキープされている。ただ、それがどの学年、どの学校にも通じるかということそれは教員と子供の学習に対する感覚のすりあわせがどれだけでできているか、どれくらいの目標を持っているのかがある。必ずしもやり方ですべてがうまくいくとは思わないが、小学校に比べれば中学校では宿題が減るという印象を持っている子は多い。増やすのもひとつの手段だと思う。
塔村教育長	・ 中学校は特に、適切な課題を設定するというのが学年によっても違う。これを解決する手段は、例えば習熟度別クラスのコースを選べるなど方法としてはある。高校でやっていることを中学校でやり、クラス分けをする、それも良かれ悪かれがある。保護者としては、もう少し宿題を増やしてほしい、減らしてという不満があるなかで言うと、そこを含めて理解をしていただきながら何をやれば良いか、

	<p>一緒に参加していただくということが大事になってくると思う。同じ兄弟がいても学年が違うことによって同じ学年、同じ勉強でもクラス、学年の状況によって勉強が違うことには言い易くはなる。その上でどうするかというのは考えていけないといけない。新学習指導要領のなかでは、プラスアルファの内容を教科書の中に盛り込まれていくので、そういうところを使いながらできていくのではないかな。</p>
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校というのは学習を組織でするので、第一義的には授業をしっかりしたものにしてもらわないというのが第一だと思う。宿題を出さないといけないということがどこから出てきているか。例えば、授業の中で次の授業の話をするなかで、その繋がりのところをどうするかによって次の学びの準備を仕掛けていくような授業を組まないといけないと思う。強制的に「(宿題を) してきなさい」ということもあるかもしれないが、一番いいのは次の授業に向けて自分が興味を持てるような終わり方をしてもらえれば、(宿題に取り組むことは) 難しいことではない。次の授業までにやってもらわないと困ることであれば、それはきちんと課題として出すべき。なんでもいいのでしておけというのは、子供にとって難しい。しないといけない事が見えていいると、子供はする。それは強制される、されていないにかかわらず、しないといけない事が見えていればする。しないといけないことを見えるようにすることが教員の役目になると思う。 ・ 文章を読んで、その意味を理解し情報を引き出すことと、情報の意味を理解することが課題としてあるが、原理原則や理論を自分の言葉で説明するというのは非常に難しい。それらについて力をつけていかないけない。自分の思いを人に分かるように伝えることに繋がる。書くことと読むことをきちんとしないといけないと思う。
谷尻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字ドリルなど朝の10分間テストを各学校取り組んでいると思ったが、それでも漢字が書けていない。数値的に出ているのは漢字を使いこなしていないということか。
糸原指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの引き継ぎで「漢字が苦手だ」という話はよく聞く。
谷尻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習は練習、テストはテスト、文章に繋いだ漢字ではないということか。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常に(習った言葉を)使わない。漢字の練習はするが、日常でその漢字を使わない。ただ、授業のなかで書くということも必要。八川小学校では、分かる漢字は書くように言うが、授業でほとんどひらがなを書く。日常的に自分のものになりきらないところがある。封筒の表書きと同様で(以前は)常識だったが、今の子供たちはメールになっている。

谷尻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に全部求めないで、家庭生活が補わないといけない。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今は、手紙ではなくても電話で要件を言えば済む。自分たちも考えてみれば1年に1回年賀状を出すくらいになっている。子供にとって往復書簡は日常にない。
谷尻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意識的に家庭生活に盛り込まないといけない。時代の流れだと感じる。
荒金委員	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードに向かうと、文章は自分自身の考えだけど、文章を練って組み立てる作業をせずに、勢いでそのまま発信してしまう。手紙だと表現が違うなど、そういったことを日常的にしなくなっている。国語力は落ちていく。手紙の書き方だけではなく、文字表現をどう捉えていくかというところだと思う。
谷尻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストになぜ封筒の書き方を入れてきたのか疑問に思った。
糸原指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の領域のなかに、話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと・言語や文化に関する事項というのがあり、言語や文化に関する基礎的な知識、事項という中に手紙をきちんと書くことが含まれている。
塔村教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には読解力だと思っている。来年の図書館研究大会に向けて取り組んでいただいているような「調べる・徹底的に読む力」を増やして欲しい。 <p>(以上、報告終了)</p>
事務局	<p>《その他諸連絡》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の視察について ・10月定例会について(10月16日(水)午後3時～) <p>(定例会終了)</p>

会 議 録 署 名

谷 尻 圭 子

塔 村 俊 介